

「途上国の教育支援は誰のため ～2022年度福山大学教養講座で結ばれた絆～」
福山大学学長 大塚 豊 様



CSRとは何の略語だろうと前から気になりながら、調べずにいた。な～るほど、Challenge for School Revivalの頭文字をとったものかと、この度の拙文の寄稿を機に改めて認識した。直訳すれば、「学校を蘇らせるための挑戦」であり、公式には「学校を輝く学びの場に」と訳すらしい。福島を拠点とするこの認定NPO法人の宍戸仙助理事長と知り合ってから数年になる。最初は、東日本大震災以降、現在の勤務校の教員で東北の復興に関心を寄せる友人からの情報を得たのがきっかけだった。ほどなくして、宍戸先生は広島でのご講演のための旅の途中に、わざわざ福山大学にお立ち寄り下さり、お会いする機会を得た。長年にわたり、福島の公立学校で教鞭を執られた後、この団体を立ち上げ、ベトナムを初めとする東南アジアの子ども達や学校の支援に取り組んでおられると聞いた。ラジオ福島で放送された関連番組のCDもわざわざ郵送して頂いた。お会いした際、先生は話しておられる間、笑顔を終始絶やされない。学校にご在職中に、こんな先生に教わった子ども達はさぞかし幸せだっただろうなあと感じた記憶がある。

その後、勤務校とのつながりが深まることになった。実は、福山大学には約半世紀前の創設以来ずっと続いている年5回の「教養講座」なる催しがある。主に新入生を対象に、高校から大学に至る学びの橋渡しをする初年次教育の一環として、各分野で功成り名遂げた達人、つまり世の中で“一流”と目されている方々の言葉や体験に直に触れる機会を提供することを目指すものである。歴代の講演者リストには、学者・文化人を中心に、芸術・スポーツ界、政官界、経済界と、各界の錚々たる方々が綺羅星の如く並んでいる。その講師として宍戸先生をお招きしたいということになった。予定が固まって、いざ実施という時に立ちほだかったのがコロナ禍である。結局、その年には実現できず、翌年度に仕切り直しとなり、この催しを主管する鶴田泰人副学長を中心に、実現に向けて調整が進んだ。宍戸先生には随分無礼なことをしてしまったが、立腹されることもなく状況をご理解くださり、快く応じて頂いた。

ところが、この二度目も、直前まで通常どおり大会館の大ホールに関係者が集まって対面で行うつもりでいたものの、コロナ禍は鎮まる気配を見せず、やはり感染防止に最大限の注意を払うべきだということになった。窮余の策として、宍戸先生にはご講演内容を動画に収録させて頂き、それを学内および近隣の姉妹校である福山平成大学にオンラインで配信する方法を採った。通常の「教養講座」のように、直接に先生の警咳に接することができれば、学生たちの感動もひとしおだったろうと残念でならない。

しかし、オンラインという制約的な講演方法であったとはいえ、長年にわたる途上国の人達との交流をはじめ、積み重ねて来られた支援の実践は、先生の熱い思いと共に動画を視聴した者の心に十分に届いたはずである。その一人である私自身も実に多くのことを学ばせて頂いた。自分自身が途上国の開発支援に携わる内外の人材の養成やその研究を主眼とする大学院で教鞭をとった経験があり、現在もカンボジアを中心に当該国の教育支援を進めるCIESFなる公益財団法人の末席を汚し、少し前までは東南アジア諸国の教育開発プロジェクトに関わったり、その一環で創られたカンボジアの教育行政官養成の大学院で毎年授業したりしていたこともあった経歴から、宍戸先生には同志的な親近感を覚えてきた。加えて、いつぞやは福山大学の卒業生でCSRスクエアの熱烈な支援者にもお引き合わせいただいた。

世の中では国や地域の教育を考える際、費やされる経費の多寡や施設・設備の善し悪しを以て、ついつい「先進」と「後進」を分けがちである。しかし、宍戸先生から伺ったことがある東南アジアの寒村の子ども達の目の輝きに救われるという話は、私自身も感じて来た。学校や大学で学ぶ意味を見失い、客観的には恵まれた環境であっても不承不承通ったり、不登校にすら陥ったりする日本の青少年よりも、むしろ学びの意欲に燃える彼の国の人たちに向き合い、何か役立つことに取り組みたいと願った。それが、かつて教育学の分野のうちでも教育開発学に傾斜した所以でもあったことから、先生から何うエピソードの数々には、まさしく「我が意を得たり」の感慨を持つ。「情けは人の為ならず」と言う。感動的な内容も含めて、先生が各地で精力的に展開されている出張授業やご講演の場で、海外での学校支援、教育支援のお話に接することを通じて恩恵を受け、“Revival”、つまり蘇るべきは日本人や日本の学校に他ならないのではと思うのである。



Youtubeで1830回視聴の教養講座(録画)スタート画面
左「鶴田泰人副学長様」、右「理事長 宍戸」

祝

ベトナム中部、クアン・ナム省、タイ・ヤン郡 飲料水確保のための水浄化装置の完成訪問

CSRスクエアでは、これまで、ベトナム中部のクアン・ナム省の平地、ティエン・フオック郡で、安全で安心して飲むことのできる水を確保するために、7本の井戸を、幼稚園や小中学校、診療所などに掘ってきました。しかし、今回のクアン・ナム省の最も西、ラオスとの国境周辺のタイ・ヤン郡は、ダナン市から、車で3時間、標高が500m～1500mもあり、井戸を掘ることはできません。そこで、山奥の湧き水などを、水槽に貯め、それを、90mmのパイプで、麓の幼稚園や小中学校まで引き、学校だけでなく、その村の村人約3,000人全員が飲むことのできるよう、数キロメートル引いてきた水を浄化して飲料水とする水浄化システムを建設したいと考え、昨年8月に、東京渋谷の表参道に事務所のある「日本寄附財団」様に提案してありました。

幸いにも、その提案を採択いただき、アヴォン村4校、ジャン村6校の計10校への設置費の支援をいただくことができました。理事長宍戸が、たった一人で現地へ乗り込み、昨年11月15日に、クアン・ナム省外務局で、タイ・ヤン郡人民委員会と契約書を締結したものの、それからが茨の道でした。

現地行政は、これまで海外からの支援で、外国からの送金を受け取ったことがなく、受け取るための銀行が無かったので。さらに、契約から2ヶ月半が過ぎた今年2月初旬に銀行を立ち上げていただき、送金したのですが、3月中旬に連絡しても、1月末に訪問した際の2校のまま、設置工事が進んでいないことが分かったのです。クアン・ナム省の関係機関の銀行設立審査が終わっていないことが原因でした。パニックに陥りました。



アレック小学校、飲料水浄化システム



トゥル小学校壁面に設置された支援者看板
左から3人目が、代表理事「村主悠真様」

することができました。皆さんに、暑さの中でも、楽しく充実した数日を過ごしていただけたようでした。

今回完成できていなかった4校の完成確認は、再度訪問し確認する予定で訪問計画を立て始めています。



2022. 11. 15 契約書調印式 (Tam Ky市)



2023. 4. 23 ダナン空港到着の訪問団

そのときには、すでに、今回(4/23-28)までに寄附していただいた、東京や名古屋などの会社の若い社長様方や財団の代表理事である「村主悠真様」を中心とするドネーションツアーの実施が決まっておりました。本当に、日本からの訪問団の方々の訪問までに、設置工事は完成するのでしょうか？現地のボランティアスタッフと一緒に、思い当たるあらゆる手続きを試してみました。クアン・ナム省の外務局に直訴状も書いて送りました。工事業者のスタッフと、慣れないベトナム語でのやりとりも続けました。心配で眠れない日々が続きました。

今回の水浄化システムの設置予定校は10校ですが、その中の4校は、車では行けない場所であったり、奥地過ぎて道幅が狭く時間が掛かりすぎるため、訪問団の方々が訪問できるのは、6校でした。その6校の設置工事が、何とか完成できそうだと連絡が、工事関係業者の一人から届いたのは、3月27日でした。

しかし、まだ安心はできませんでした。それぞれの学校には、寄附してくださった方々のそれぞれの名前が入った大きな看板を取り付けなければならないのです。その看板は、普通の看板と違い、今回のプロジェクト名である「maaaruru」の特別なマークの入った看板ですから、こちらでデータを作成して、それを送り、看板を作ってもらい、その学校の支援者の方の名前の看板を決められた学校に取り付けなければならないのです。

訪問団が現地に着する4日前(4/19)に現地へ向かい、完成の確認、看板の取り付け場所の変更、歓迎式典の準備、民族交流村での歓迎方法、すべてを確認し、無事に訪問団をお迎えす

2022年度 出前授業・講演会の実績 (コロナ禍を乗り越え)

No.	月日	曜	時刻	学校名・団体名	学年	生徒数	教科等	参観者
1	6月16日	木	12:40	東京都立富士高等学校附属中学校	中3	140	講演会	5
2	6月17日	金	10:40	東京都、西東京市立住吉小学校	小5・6	130	講演会	8
3	7月11日	月	13:30	福島県、株式会社「春光園」社員研修会			講演会	40
4	7月15日	金	10:00	神奈川県、鎌倉学園	中1	181	講演会	10
5	9月5日	月	13:10	福島県、福島市立清水小学校	小5	69	講演会	4
6	9月10日	土	10:00	東京都、江戸川区立鹿骨東小学校	小6	120	講演会	8
7	9月10日	土	11:00	東京都、江戸川区立鹿骨東小学校PTA			講演会	200
8	9月16日	金	10:40	東京都、町田市立南大谷小学校	小6	114	講演会	6
9	9月30日	金	13:30	ベトナム北部、ハノイ市、実験中学校	中3	47	講演会	2
10	10月5日	水	10:00	T.T.Hue省、A Luoi郡、Truong Son中学校	中1	80	講演会	10
11	10月9日	日	13:30	ベトナム中部、ダナン市、英語キッズクラブ	小学生	20	講演会	45
12	10月14日	金	14:10	福島県立福島南高等学校国際文化科	高1	39	講演会	4
13	10月19日	水	16:30	埼玉県、文教大学人間科学部人間科学科	大1	170	講演会	15
14	10月20日	木	13:15	福島県立あさか開成高等学校	高1	161	講演会	20
15	10月25日	火	15:00	Direct Force「ベトナム学習会」(Zoom)			学習会	10
16	11月9日	水	10:40	福島県、郡山市立金透小学校	小4~6	78	講演会	5
17	11月11日	金	7:10	宮城県、仙台市東北高等学校	高1	80	講演会	10
18	11月30日	水	14:00	広島県、福山大学教養講座	大1	1500	講演会	350
19	12月6日	火	12:30	島根県、出雲ロータリークラブ			卓話	20
20	12月7日	水	13:10	島根県、永島学園西高等学校	高2	20	講演会	3
21	12月13日	火	13:20	福島県、福島市立北沢又小学校	小5	60	講演会	4
22	12月15日	木	10:15	福島県伊達郡、国見町立国見小学校	小6	50	講演会	5
23	1月11日	水	13:30	東京都、江戸川区立鹿骨東小学校	小6	120	講演会	8
24	1月12日	木	14:20	東京都、西東京市立住吉小学校	小5・6	131	講演会	8
25	1月13日	金	10:00	東京都、啓林館、第1教育推進部第1課研修会			講演会	10
26	1月13日	金	13:00	東京都、板橋区立志村第二中学校	中1	109	講演会	5
27	1月18日	水	13:10	福島県、いわき市立植田東中学校	中2	49	講演会	4
28	1月25日	水	13:30	福島県、いわき市立小名浜第一中学校	中2	100	講演会	10
29	1月27日	金	13:50	福島県伊達郡、国見町立国見小学校	小6	50	講演会	8
30	2月10日	金	10:30	福島県、福島市立福島第三小学校	小6	67	講演会	3
31	2月16日	木	10:00	福島県、日本旅行「新コンテンツ開発チーム」学習会(Zoom)			学習会	5
32	2月21日	火	18:30	神奈川県、横浜ハーバークラブ講演会			講演会	20
合計						3685		865

やっと再開に向けて動き出した出前授業や講演会。昨年度の出前授業や講演会実施の特徴は、訪問させていただいたいくつかの学校の子どもたちが現地の貧しい学習環境で学ぶ子どもたちへの支援に立ち上がり、支援品や募金を集めてくれたことでした。

江戸川区立鹿骨東小学校、西東京市立住吉小学校、福島県伊達郡国見町立国見小学校などの子どもたちです。それらの寄附金などは、理事長・宍戸の現地訪問に合わせ、現地に持参され、現地の校長と相談のうえ、寄附金は、大型スピーカーなどとしてプレゼントされました。

現地から届けられた動画には、「ありがとう。〇〇小学校。」などと、瞳輝く子どもたちからの感謝のメッセージの叫び声も入っており、忘れられない感動のプレゼントとすることができました。



2023/2/6、トウエン・クアン省、ラム・ビン郡、ナ・キエン小学校

【ラジオ番組「お母さん教室～話の広場～」】

2月7日・14日・21日、ラジオ福島での放送

2017年9月にスタートした理事長・宍戸のラジオ福島での番組の放送も、7年間で計38回となりました。

今年2月のテーマは、「高校生を案内しての、ベトナム北部奥地の研修ツアー『鎌倉学園訪問記』」と題し、第一話は、ハノイ出発前に起きた信じがたい事件と、第二話は、現地での心も身体も温まるエピソード、さらに、第三話として、ハノイ大学で日本語を学ぶ学生さんの素晴らしい感想メッセージが、それぞれ、12分程度の録音で収録されております。

ご希望の方には、CDまたは、音源ファイルをメール添付でお送りも可能です。連絡をお待ちしております。

仕事やメールで疲れたとき、電車の中や、車のナビや自宅のCDプレイヤーやスマホからの音だけの世界を楽しんでいただければ幸いです。



2022年10月～2023年3月の正・賛助会員、特別寄付者名（敬称略）

◆正会員◆

宮城県	佐藤美奈子
同	佐藤 緑
茨城県	角井 夏宜
千葉県	石井 克則
東京都	青木 孝裕
同	竹内 勇也
同	玉置 梨絵
同	中田 千晴
同	松岡 一樹
同	柳澤 康弘
(匿名希望1名)	
神奈川県	飯塚 真也
同	今井 周一
同	冠木友紀子
愛知県	阿曾 将成
岐阜県	鎌倉 庄司
ベトナム・ハノイ	茂木 雅人
居所不明	内田 シュウヘイ

◆賛助会員◆

神奈川県	吉田 紘樹
滋賀県	高橋 優斗

◆寄付者◆

北海道	山本 禎	東京都	富塚由美子	島根県	内藤 輝一
宮城県	佐藤美奈子	同	西東京市立	福岡県	坂本 武典
栃木県	柳 文男	住吉小学校		ベトナム	Bhling Mia
埼玉県	バーバーショップ	同	日本寄附財団	居所不明	ゲン フン
	ニシヤマ	同	真鍋 秀則		日本語学校
同	太田 光紀	同	浜地 昭男	同	ゲイン・ジイ
千葉県	太田 利彦	同	柳田 邦男		ティン・チュ
同	染谷 登	同	吉野 佑	福島県	安齋 純子
同	中込志津子	同	若松姫恵子	同	上野 富雄
同	藤原 勝子	神奈川県	飯塚 真也	同	内田 安子
同	三嶋 秀恒	同	金子 恵美	同	神岡 祥恵
同	水沼 武二	同	小林 暉	同	菅野八百子
同	光安 輝雄	同	園部 和宏	同	国見町立
同	山田 弘	同	佐藤 洋平		国見小学校
東京都	岩松 廣行	同	西垣 文男	同	黒羽 孝男
同	江川 哲子	同	平井 隆一	同	齋藤 典子
同	江戸川区立	同	比留川 学	同	高信 栄一
	鹿骨東小学校		(匿名希望2名)	同	高信由美子
同	河内 和宏	静岡県	大石 孝裕	同	福島南高等学校
同	木島 良三	三重県	村上 晴紀	同	森藤 学
同	清水 誠	愛知県	牧原 東吾	同	横谷 進
同	蔦木 淳二	岐阜県	鎌倉 庄司	同	吉川 哲也
同	時東 あみ	兵庫県	石原佳代子	同	渡辺とし子
同	徳永佐智代	島根県	妹尾 由香		(匿名希望3名)


認定NPO法人 シーエスアールスクエア（CSR²）（輝く学校広場）
Challenge for School Revival & Corporate Social Responsibility
 〒960-8136 福島県福島市八島町6-29 TEL 090-2604-4226 FAX 024-533-2612
 (ホームページ)<https://csr2.or.jp/> (facebook)<https://www.facebook.com/Kagayakugakkou>
 E-mail: shishido.csr2@gmail.com
 